

# バリアフリー（障がいを考える）絵本の現状と課題

柴 村 紀 代

## Abstract

Since Special Needs Education was implemented in 2007, barrier-free picture books have come to attract particular attention. However, among the so-called barrier-free picture books currently being published, a number have been found to be difficult to use in practical situations. In addition, there are numerous new picture books that could be more fully utilized. Here, I consider potential future problems in terms of integration through an examination of how individual barrier-free picture books should be utilized at preschool education facilities.

## 1 はじめに — バリアフリー絵本とは？

2011 年 8 月国立国会図書館国際子ども図書館で、「世界のバリアフリー絵本展 — 国際児童図書評議会 2009 年推薦図書展」が社団法人日本国際児童図書評議会（JBBY）との共催で開催された。開館 10 周年を記念するこの企画は、バリアフリー絵本に対する社会の関心の高まりを示している。

まず「バリアフリー絵本」とは何か？ 一口に言うと「障害の有無にかかわらず、そのバリア（障害）を楽しめる絵本」とある。これを二つに分けると、

1、さまざまな**障害**<sup>1</sup>をもった人が、自分で読めるようにしてある絵本。

大型活字絵本、点字付き絵本、手話付き絵本、絵文字付き絵本、手で触る絵本などがある。

2、障害を理解するための絵本

それぞれの障害についてわかりやすく紹介している絵本や、ある特定の障害を感じさせるが、具体的な名称をあげず個性の一つとして扱っているもの。

に分けられる。ここでは、2の「障害を理解するための絵本」を主としてとりあげる。

バリアフリー絵本が近年注目を集めてきたのには、児童福祉の分野で、ノーマライゼーションを目指す新たな動きが背景にある。まずバリアフリー絵本が増えてきたその社会的背景を探る。

## 2 バリアフリー絵本の背景にある障がい児教育の現在

### 2-1 特別支援教育とノーマライゼーション

2005 年 12 月、文部科学省におかれている中央教育審議会が「特別支援教育を推進するための在り方について」という答申をだした。そこには、「障がいのある幼児児童生徒の教育の基本的な考え方について、特別な場で教育を行う従来の『特殊教育』から、一人ひとりのニーズに応じた適切な指導及び必要な支援を行う『特別支援教育』に転換」することが述べられている。

これはこれまでの特殊学級や養護学校等の特別な場に措置して行う教育ではなく、子どもの個別の教育的ニーズに応じた適正な支援を行うというノーマライゼーションやインクルージョンの方向を明確に示した提言と言える。

<sup>1</sup>「しょうがい」という文字だが、近年は「障害」の「害」の字をさけて、「障碍」もしくは「障がい」という表記が多い。ここでは、叙述部分は「障がい」を使うが、引用文献では、文献内の表記にしたがっている。

ノーマライゼーションとは、障がい者と健常者とがお互いに特別に区別されることなく、社会生活を共にするのが正常なことであり、本来の望ましい姿であるとする考え方である。ノーマライゼーションを教育に取り入れる方法としてインクルージョンが提案された。インクルージョンとは、小・中学校において障がいを持った子どもが大半の時間を通常学級で実践し、障がいの種別や程度によって一部場を分けて行う教育方法である。ノーマライゼーションはデンマークで1950年代に、デンマークの知的障がい児親の会が障がい児たちの大半が施設での生活を余儀なくされていることに疑問を感じ、一般社会の中で共に暮らす道を模索する中から生まれた考え方である。デンマークの当時の社会省担当官バンク・ミケルセンはノーマライゼーションについて次のように述べている。

「ノーマライゼーションとは、全ての人が当然もっている通常の生活を送る権利をできる限り保障する、という目標を一言で表したものです。ノーマライズするというのは、生活条件のことを言っているのです。障害そのものをノーマルにすることではありません」

2006年4月には学校教育法施行規則が改正され、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)、高機能自閉症などが通級による指導の対象となった。

## 2-2 幼児教育における障がい児教育

先の文部科学省の答申を受けて、2007年4月に特別支援教育が実施された。これに伴い従来の盲学校・聾学校・養護学校は、特別支援学校と名称を改めた。北海道でも「特別支援学校に関する基本方針」五カ年計画<sup>2</sup>(2008年～2012年)を策定した。「幼稚園における障がいのある幼児への指導の充実」として、以下の項目をあげている。

○障がいの早期発見・早期対応が重要であり、各幼稚園においては、園内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターの指名など園内体制を整備し、園全体としての協力体制の下、発達障がいを含む障がいのある幼児の実態把握を行い、保護者や地域の関係機関等と連携して指導や支援の充実を図ります。

○地域における専門家チームや巡回相談を活用するとともに、特別支援学校との連携を図るなどして、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、指導や支援の充実を図ります。

○障がいのある幼児が在籍していない幼稚園においては、園児が障がいのある幼児と共に活動する場面を工夫するなど、交流及び共同学習の充実を図ります。

幼稚園における障がいのある幼児の受け入れは、2003年度の全国国公立幼稚園長会調査によると、5233園中44.5%の園が障がい児を受け入れている<sup>3</sup>。

札幌市の場合、2000年には市内の公立幼稚園17園全園<sup>4</sup>、私立幼稚園133園中46園で障がい児を受け入れており、ノーマライゼーションが進んでいることを伺わせる。

保育園の場合、札幌市のケースでは、札幌市の公立保育園と認可保育園205園中109園(254人)で障がい児を受け入れている。この認定方法は療育手帳等を持っている幼児の数だが、手帳がなくてもグレーゾーンの幼児がまだ多数いることが伺える。

## 2-3 バリアフリー絵本の園での使用について

実際に園で、バリアフリー絵本がどのように活用されているか、札幌市立認定こども園「にじいろ」にお話をお聞きした。「にじいろ」は、幼稚園機能、保育園機能、子育て支援機能を併せ持つ複合施設である。2011年現在保育園児60名、幼稚園児55名、子育て支援センターには1000名以上の登録がある。何らかの障がいを持つ幼児の数は保育園児8名、幼稚園児15名とあるが、その他にもグレーゾーンの園児も通園している。

<sup>2</sup> 北海道教育委員会ホームページ「特別支援教育に関する基本方針について」

<sup>3</sup> 大南英明編『自閉症教育の新時代実践の手引 上・下』明治図書 2007年 p.26

<sup>4</sup> なお、札幌市の公立幼稚園は2011年に3園、2012年に4園が閉園になることが決まっている。

「にじいろ」では、特に意識的にはバリアフリー絵本を使ってはいないとのことだった。バリアフリー絵本には、はっきりと障がいの名前を出して、障がいの特徴を説明している絵本があるが、実際に障がい児を受け入れている園では、バリアフリー絵本がかえって妨げになるケースもあるとの配慮がある。たしかにまだ判断の乏しい幼児にとって、「○○ちゃんは自閉症なんだよ」と教えられれば、それが「自分たちとは違う」という「違いのレッテル化」につながり、かえってその子を排除の対象にしかねない。園の指導としては、「みんなそれぞれ違うところがあるよね。足の速い子もいるし、遅い子もいるでしょ。それでも、みんな仲良くしてるよね」というように、集団生活の中でスムーズに他者の違いを受け入れられるように心がけているという。

また、障がい児の親からの要望で、障がいについて話す場合もあるが、その場合にも十分な配慮が必要になる。

現在、多くの園で障がい児を受け入れているなかで、どのように園児に説明するかについてさまざまな本が出ている。そのひとつ『こどもに障害をどう説明するか』<sup>5</sup>では、多くの事例が載っている。

○障害名を言うことで、本人が傷ついてしまうことがあるので、障害名は直接みんなに話して欲しくない。得意なこと、苦手なこととして話して欲しい。

○障害のあるなしはホクロのあるなしと同じ個性なのだと、「障害」という言葉を使わずに一般論として説明してほしい。

○親が他の保護者に説明するときには、障害名を言うケースが多い。親あるいは教師が他の子どもに障害名を言うのは希なケース。

たしかに幼児に障がい名を言うことが、幼児の理解を助けるとは限らない。幼児が理解できる範囲で、障がいを受け入れるにはどうしたらよいか。ときには「絵本」という間接手段を使って、幼児に広く理解を促す方法がとれないかと思う。

### 3 バリアフリー絵本の検討

上記の前提のもとに、現在、どのようなバリアフリー絵本が出ているか、それらがどのように活用できるかを検討してみたい。なお、これらのリストは、札幌えほん研究会が集めたリスト<sup>6</sup>を元にしている。

#### 3-1 身体障がいを扱った絵本



『さっちゃんのまほうのて』

たばせい いち／先天性四肢障がい児父母の会

・のべあきこ・しざわさよこ・共同制作

偕成社 1985年

障がいを描いた絵本としてよく知られた代表的な絵本。先天性四肢障がい児父母の会が、さっちゃんのような先天性四肢障がいのことを子どもたちに上手に伝える方法はないものだろうかと考え、絵本画家の田畑精一と相談し、作成された絵本である。幼稚園や小学校でもよく使われ、障がいを持つ子どもの痛みを理解する上で、絵本はきわめて有効な手段であることがわかる。

<sup>5</sup> 相川恵子・仁平義明『こどもに障害をどう説明するか』ブレーン出版 2005年

<sup>6</sup> 札幌えほん研究会「読み聞かせ絵本の手引 355冊の絵本」(代表 柴村紀代)のテーマ別絵本の中のバリアフリー絵本を使用した。



### 『ぼくたちのコンニャク先生』

星川ひろ子・文／写真  
小学館 1996年

脳性マヒの保育園の先生と園児たちの写真絵本である。保育園でコンニャク先生と呼ばれる近藤雅則氏は、保育園の非常勤職員である。生まれた時に脳性マヒになって、園児たちに「どうして」と聞かれると「それはけがみたいなものだ」と教える。足で折り紙をおり、はさみを持ち、自然体で過ごす近藤雅則氏の姿は、そのままノーマライゼーションのあるべき姿を伝えている。障がい者が普通に社会で働けるようになるにはまだ遠い道のりだが、「子どものときから障害者と一緒に過ごすことが、障害者との間にミゾを作らないことだ」と絵本の解説で小児科医の毛利子来が述べているように、絵本からその願いは無理なく伝わってくる。



### 『ペカン木のはつたよ』

青木道代・文／浜田桂子・絵  
福音館書店 2004年

著者の青木道代<sup>7</sup>のいる保育園での実話を元に作られた絵本。下肢が不自由なりんちゃんを、子どもたちは何とかペカンの木に登らせてあげたいと思った。それを見て先生がりんちゃんをおぶってペカンの木に登り始めた。子どもたちは「りんちゃん、がんばれ、先生、落とすなよ」と声援を送る。ここには障がい児を対等な仲間と認める子どもたちの集団がある。

この絵本の舞台となった「すみれ園」は、1964年に開園され、2年目から障がいをもつ子どもたちが入園してきた。先天性脊椎二分症で下半身が麻痺した勝美君が入園してきたときも、子どもたちは勝美君を運ぶ方法を自分たちで考え、「おみこしワッショイ」と言いながら楽しく行動した。青木道代は「幼児集団の中に障がいを負う子どもがいることがどれほど大切なことなのか子どもたち自身が教えてくれた」と述べている。

## 3-2 聴覚障がいを描いた絵本



### 『ぼくのだいじな あおいふね』

ピーター・ジョーンズ・文／ディック・ブルーナ・絵／中川健蔵・訳  
偕成社 1986年

世界中にファンをもつディック・ブルーナが「障がいのあるなしにかかわらず、子どもたちがお互いに理解し合い、共に生きていく助けとなつてほしい」と願って作った絵本。ベンという耳が聞こえにくい男の子の話。子どもたちがよく知っているキャラクターを使って作られた障がいを考える絵本には、他にチャールズ・M・シュルツの『チャーリー・ブラウンなぜなんだい？』がある。これは白血病になった女の子の話である。日本でも、こういう試みはもっと進められていいと考える。

<sup>7</sup> 失明した夫・青木優との共著『障碍を生きる意味』岩波書店 1997年 もある。

### 3-3 自閉症を描いた絵本



『たっちゃんぼくがきらいなの ― たっちゃんはいへいしょう(自閉症)』  
さとうとしなお・文／みやもとただお・絵  
岩崎書店 1996年

この絵本のたっちゃんは、手をつないでもいつも逃げて行く。突然大きな声をだしたり、自分で頭を叩いてしまう。「どうしてだろう」と疑問に思う子どもたちに自閉症についてわかりやすい言葉でいねいに説明している。ここでは、はっきり「自閉症」という言葉を使っている、そのことが直接保育現場で使うことをためらわせるが、内容は子どもたちにも理解できる。保育科の学生に紹介している絵本だが、園でも保護者の理解があれば、ぜひ使ってみてほしい絵本である。

### 3-4 ダウン症を描いた絵本



「ダウン症」について2冊の絵本を紹介したい。1冊はスウェーデンで作られた『わたしたちのトビアス』<sup>8</sup>。これはダウン症の弟のことをトビアスの兄弟が絵を描き、母親のセシリアがまとめた本である。兄弟はトビアスのことを誇りに思い、生き生きとした日常を楽しそうに語っている。一方、『となりのしげちゃん』<sup>9</sup>は写真絵本である。となりに住んでいる女の子あらたちゃんの視点から語られる。

しげちゃんがおしゃべりをしないのは何故だろう。と疑問に思ったあらたちゃんはしげちゃんのお母さんに聞いてみた。「みんなよりゆっくりおぼえていくだけなのよ」とお母さんの説明がある。1年間の保育園での生活で少しずつ二人が仲良くなっていく様子がほほえましい。ただ実際にダウン症の子どもがいる保護者には異論があるかもしれない。私の知り合いの保護者は、「この絵本を園で読み聞かせしてほしい」との意見だった。写真は動かない。「静止した写真はダウン症の特徴を決めているようでつらい」という。しげちゃんの保護者はあとがきで次のように述べている。

「ハンディのある自分の子どもを知らない人に見てもらうことに、全く迷いが無いといったら嘘になります。しかし、この本が、共に遊んだり学んだりしている学齢期前の子どもたちに、しげきや同じハンディを持つ子どもたちのことを曇りなく知ってもらうための、また生まれたばかり

りのダウン症の赤ちゃんを持って悲嘆にくれている親御さんの一助になればと思っています。」

改めて写真絵本の難しさを感じる。

### 3-5 その他の絵本

具体的な障がいの紹介はないが、何らかのハンディを感じさせる絵本がある。次に紹介する『だめよ、デビット!』は、ADHD(注意欠陥多動性障がい)の子どもの特徴と重なる。このデビットのような行動は、活発な子どもならだれでも経験のあることなので共感を呼びやすいため、園や学校でも広く使われている。また、病気で入院している友だちに思いをめぐらすものとして、先にあげた『チャーリー・ブラウンなぜなんだい?』も白血病の子どもを描いた絵本だが、小児白血病の子どもたちと日々向き合っている医師・細谷亮太<sup>10</sup>の『ぼくのいのち』は、「子どもの死」という重いテーマを取り上げている。あ

<sup>8</sup>『わたしたちのトビアス』セシリア・スベドベリ・編、トビアスの兄弟・絵 偕成社 1978年

<sup>9</sup>『となりのしげちゃん』星川ひろ子・文／写真 小学館 1999年

<sup>10</sup>細谷亮太著『川の見える病院から ― がんをとたかう子どもたちと』岩波書店 1995年

とがきに「どんなに医学が進歩してもなおせる病気には限りがあります。幸い、私たちには知恵がさずけられています。なおらなくなった時に、どうすればよいのかを考えることもできるのです」とある。

人は健康なときばかりではないこと、今、病院にいる子どもたちのことを知ること、絵本はそういう子どもたちのことを考える糸口をあたえるものでもある。



『だめよ、デイベット!』

デイベット・シャノン・作 小川仁央・訳  
評論社 2001年

元気が良すぎて悪戯ばかりする男の子に母が「だめ、だめ!」と言いつける。色々あっても最後に抱きしめられて「だいすきよ!」と言われて安心する子どもの笑顔がいい。



『ぼくのいのち』

細谷亮太・文／永井泰子・絵  
岩崎書店 1999年

夏休みぼくはお祖母ちゃんのお蔵で、入院していた頃のつるつる頭でお母さんに抱かれた写真を見つけた。自分の小さい時のお医者さんにたずね、白血病であったことを知る。病気と闘った友だちの半分はもういない。帰り道、いつもの木立の緑や日の光が「いつもとちがう、とてもきれい」と結ばれている。

## 4 結論 ― バリアフリー絵本の課題

### 4-1 バリアフリー絵本を通して絵本の機能を考える

絵本には昔話絵本や物語絵本など、楽しい絵本がたくさんある。読み聞かせに使われるのはこれらの絵本が多いが、絵本には、他に絵本の機能を生かしたテーマを持った絵本群もある。例えば、戦争の悲惨を伝える絵本、生と死を考える絵本、ジェンダーを考える絵本などがある。これらはあるテーマを伝えるために物語化され、幼い子の理解を助けるために絵がそえられている。それによって、説明文が長く続く解説書よりも直接子どもにわかりやすいことがあげられる。バリアフリー絵本もこれらのテーマ別絵本のひとつとして、さまざまな障がいをもつ他者を理解する助けとなる。

絵本の特徴は、「○○ちゃんは、こういうことが苦手なんだよ」と直接身近な友だちのことを聞かされるより、絵本の中の世界として客観的に伝えることができる。この客観性が障がいを持つ子の苦労や内面の苦悩を想像する助けとなる。絵本は日常的な次元から、より高い次元での想像力を子どもたちの中からひきだしてくる。「相手の立場になって考える」という想像が、絵本の場合には、絵本の主人公に自分を重ねることによってより容易になる。バリアフリー絵本が近年広がってきた背景には、このような絵本の機能を理解し、また絵本の機能をよく踏まえた絵本ができたこともあげられるだろう。しかし、そのことがまた「頭だけで理解する」という矛盾も生み出しかねない。

### 4-2 バリアフリー絵本の今後の課題

バリアフリー絵本は以前から少しずつ作られてきた。1979年に文部省が養護学校の義務化を打ち出してから、障がい者側から地道にノーマライゼーションへの運動が続けられてきた。ようやく2007年に特別支援教育が実施されるようになったことで、障がい者自身が主体的に学校を選択できるようになり、

普通学級への進学が可能になった。しかし、長く障がい児と普通児を分けてきた壁をそう簡単に取り払うことは困難で、現在、各地の小学校で小さくない混乱が起きている。しかし、障がいを持つ子と普通児が共に学ぶことは、さまざまな他者を理解するためにきわめて大切なことである。学校教育が早い時期から能力主義をとれば、早晩障がい児排除の方向へと向かってしまう。金子みすゞの詩「わたしと　こ　とりと　すず」の一節に「みんな　ちがって、みんな　いい。」という言葉があるが、障がい児と共に学ぶことは、それぞれの違いを認め、共に生きることを肌で感じさせてくれる。バリアフリー絵本は、絵本という表現方法を使って、共に生きることのすばらしさを伝えている。幼稚園や保育園でこれらの絵本が少しずつ自然に使われることを願っている。

## 参考文献

- 高森明『アスペルガー当事者が語る特別支援教育——スロー・ランナーのすすめ』金子書房　2007年  
大南英明編『自閉症教育の新時代実践の手引　上・下』明治図書　2007年  
小笠毅編『ハンディのある子どもの権利』岩波ブックレット　2004年  
野本茂夫監修『障害児保育入門』ミネルヴァ書房　2005年  
ヤン・テッセブロー編『インクルージョンの時代』明石書店　2004年  
鈴木文治『排除する学校——特別支援学校の児童生徒の急増が意味するもの』明石書店　2010年

バリアフリー（障がいを考える）絵本

	分 類	作 品 名	作・文	絵	訳・再話	出 版 社	出版年	備 考
1	ADHD	オチツケオチツケこうたオチツケ — こうたはADHD—	さとうとしなお	みやもとただお		岩崎書店	2003	
2	ADHD	だめよ、デイビット！	デイビット・シャノン	デイビット・シャノン	小川仁央	評論社	2001	
3	学習障害	ありがとう、フォルカーせんせい	パトリシア・ボラッコ	パトリシア・ボラッコ	香咲弥須子	岩崎書店	2001	
4	視覚障害	青い馬の少年	ビル・マーティン・ジュニア、ジョン・アーシャンボルト/文	テッド・ランド	金原瑞人	アスラン書房	1995	
5	視覚障害	雨のにおい 星の声	赤座憲久	鈴木義治		小峰書店	1987	
6	視覚障害	花をかう日	あまんきみこ	味戸ケイコ		ポプラ社	1999	
7	視覚障害	みえないってどんなこと	星川ひろ子	星川ひろ子・写真		岩崎書店	2002	
8	視覚障害	見えなくてもだいじょうぶ？	フランツ＝ヨーゼフ・ファイニク	フェレーナ・バルハウス	ささきたづこ	あかね書房	2005	
9	自閉症	おいでよ ルイス！	レスリー・エリー	ポリー・ダンバー	もとしたいずみ	フレーベル館	2009	
10	自閉症	ごきげんボッラはなぞ人間	グニツラ・ベリイストロム	グニツラ・ベリイストロム	ビヤネール多美子	偕成社	1982	
11	自閉症	たっちゃんぼくがきらいなの—たっちゃんはじへいしょう	さとうとしなお	みやもとただお		岩崎書店	1996	
12	自閉症	ボッラはすぐごきげんだ！	グニツラ・ベリイストロム	グニツラ・ベリイストロム	ビヤネール多美子	偕成社	1981	
13	身体障害	あつおのぼうけん	田島征彦	吉村敬子		童心社	1983	
14	身体障害	おねえちゃんとわたし	ミッシェル・エマート	ゲイル・オーウェン	岡田なおこ・太田真智子	小学館	1999	脳性マヒ
15	身体障害	車いすのレイチェル	エリザベス・ファンショー	マイケル・チャールトン	邑田晶子	偕成社	1979	
16	身体障害	さっちゃんのまほうのて	たばたせいいち／先天性四肢障がい児父母の会他	たばたせいいち		偕成社	1985	先天性四肢障がい
17	身体障害	スーザンはね…	ジーン・ウイリス	トニー・ロス	もりかわみわ	評論社	2002	
18	身体障害	ちえちゃんの卒業式	星川ひろ子	星川ひろ子・写真		小学館	2000	
19	身体障害	パースデーケーキができたよ！	くぼりえ	くぼりえ		ひさかたチャイルド	2002	
20	身体障害	はせがわくんきらいや	長谷川集平	長谷川集平		ブッキング	2003	すばる書房1981
21	身体障害	ふしぎふにやふにやフランケン	近藤雅則・原案 立花尚之介・作	立花尚之介		岩崎書店	1995	脳性マヒ
22	身体障害	ペカンの木のぼったよ	青木道代	浜田桂子		福音館書店	2004	
23	身体障害	ぼくたちのコンニャク先生	星川ひろ子	星川ひろ子・写真		小学館	1996	脳性マヒ
24	身体障害	ぼくは海くんちのテーブル	西原敬治	福田岩緒		新日本出版社	2002	
25	身体障害	夕明かりの国	アストリッド・リンドグレーン	マリット・テルンクヴィスト	石井登志子	徳間書店	1999	
26	身体障害	ゆめのおはなしきいてえなあ	吉村敬子	佐々木麻こ		偕成社	1980	脳性マヒ
27	身体障害	わたしいややねん	吉村敬子	松下香住		偕成社	1980	
28	身体障害	わたしの足は車いす	フランツ＝ヨーゼフ・ファイニク	フェレーナ・バルハウス	ささきたづこ	あかね書房	2004	



29	その他	おにいちゃんがいってよかった	細谷亮太	永井泰子		岩崎書店	2003	
30	その他	おんちゃんは車イス司書	川原正実・原案 梅田俊作・作	梅田俊作		岩崎書店	2006	
31	その他	からすたろう	やしまたろう	やしまたろう		偕成社	1979	
32	その他	どんなかんじかなあ	中山千夏	和田誠		自由国民社	2005	障がいを理解する
33	その他	ノエルのおさんぽ	るりこ・デュアー	たかはしみちこ		メディアファクトリー	2001	神経障がい・脳障がい
34	ダウン症	スマッジがいるから	ナン・グレゴリー	ロン・ライトバーン	岩元綾	あかね書房	2001	
35	ダウン症	となりのしげちゃん	星川ひろ子	星川ひろ子・写真		小学館	1999	
36	ダウン症	わたしたちのトビアス	セシリア・スベドベリ	トビアスの兄姉	山内清子	偕成社	1978	
37	ダウン症	わたしたちのトビアス大きくなる	ボー・スベドベリー	トビアスの兄姉	ビヤネール多美子	偕成社	1979	
38	ダウン症	わたしたちのトビアス学校へいく	ボー・スベドベリー	ボー・スベドベリー		偕成社		
39	知的障害	度十公園林	宮澤賢治	伊藤亘		偕成社	1987	
40	知的障害	ぼくのおにいちゃん	星川ひろ子・写真、文	星川治雄・写真		小学館	1997	
41	知的障害	ボスがきた	まじまかつみ・字	たけうちまさき	福井達雨・編	偕成社	1980	
42	知的障害	みんなみんなぼくのともち	福井達雨・編 福井義人・文	高田真理子他		偕成社	1980	
43	聴覚障害	14の心をきいて	つちだよしはる	つちだよしはる		PHP 研究所	2002	
44	聴覚障害	アイのことばのコップ	つちだよしはる	つちだよしはる		PHP 研究所	2005	
45	聴覚障害	ゴンタとカンタ	つちだよしはる	つちだよしはる		PHP 研究所	2004	
46	聴覚障害	せなかをとんとん	最上一平	長谷川知子		ポプラ社	1996	
47	聴覚障害	トーベのあたらしい耳	トーベ クルベリ	エッマ アード ボーグ	ひだにれいこ	少年写真新聞社	2010	
48	聴覚障害	どこかちがうマリア	リセロッテ・セル ピーターセン	リセロッテ・セル ピーターセン	木村由利子	偕成社	1979	
49	聴覚障害	ぼくのだいじなあおいふね	ピーター・ジョーンズ	ディック・ブルーナ	なかがわけんぞう	偕成社	1986	
50	聴覚障害	ぼく耳がきこえないんだ	フレディ・ブルーム	マイケル・チャールトン	邑田晶子	偕成社	1979	
51	聴覚障害	ゆいちゃんのエアメール	星川ひろ子	星川ひろ子・写真		小学館	2001	
52	聴覚障害	わたしたち手で話します	フランツ＝ヨーゼフ・ファイニク	フェレーナ・バル ハウス	ささきたづこ	あかね書房	2006	
53	聴覚障害	わたしの妹は耳が聞こえません	ジーン・W・ピーターソン	デボラ・レイ	土井美代子	偕成社	1982	
54	白血病	キャシーのぼうし ーきぼうものがたりー	トルーディ・クリ シャー	ナディーン・バー ナード・ウエスト コット	かつらあまね	評論社	2007	
55	白血病	チャーリーブラウンなぜなんだい？	チャールズ・M・ シュルツ	チャールズ・M・ シュルツ	細谷亮太	岩崎書店	1991	
56	白血病	ぼくのいのち	細谷亮太	永井泰子		岩崎書店	1999	

その他、読み聞かせには適さないが、参考のために載せておきました。

	分 類	作 品 名	作・文	絵	訳・再話	出 版 社	出版年	備 考
1	ADHD	ADHDってなあに？	エレン・ウィナー	エレン・ウィナー	高山恵子	明石書店	2006	
2	ADHD	ぼくって、ふしぎくん？ 発達の障がい ADHD	嶋田泰子	岡本順・絵	北村小夜・監修	ポプラ社	2006	
3	学習障害	ディスレクシアってなあに？	ローレン・E・モイニハン	トム・ディニン/イラスト	藤堂栄子	明石書店	2006	
4	言語障害	ことばの障がいってなあに？	ジョン・E・ブライアント	トム・ディニン/イラスト	服部律子	明石書店	2007	
5	視覚障害	ぼくの耳ってすごいんだぞ 目の見えないひと	嶋田泰子	内藤裕・写真	北村小夜・監修	ポプラ社	2006	
6	視覚障害	指で見る	トーマス＝ベリイマン	トーマス＝ベリイマン・写真	ビヤネール多美子	偕成社	1977	
7	自閉症	自閉症ってなあに？	アンドレナ・エドワーズ	アンドレナ・エドワーズ	小川由紀野	明石書店	2007	
8	自閉症	やっちゃんがいっく！ 自閉症	佐藤陽一	坂本真典・写真	北村小夜・監修	ポプラ社	2006	
9	身体障害	なぜ、目をつぶるの？	トーマス＝ベリイマン	トーマス＝ベリイマン・写真	ビヤネール多美子	偕成社	1981	
10	身体障害	ゆめ、ぜったいかなえるよ からだの不自由なひと	嶋田泰子	内藤裕・写真	北村小夜・監修	ポプラ社	2006	
11	その他	トゥレット症候群ってなあに？	ティラ・クルーガー	トム・ディニン/イラスト	服部律子・日本トゥレット協会・監修	明石書店	2007	
12	ダウン症	ゆっくりって、いいな ダウン症	嶋田泰子	坂本真典・写真	北村小夜・監修	ポプラ社	2006	
13	知的障害	だれがわたしたちをわかってくれるの	トーマス＝ベリイマン	トーマス＝ベリイマン・写真	ビヤネール多美子	偕成社	1979	
14	聴覚障害	おしゃべり、だいすき 耳のきこえないひと	嶋田泰子	内藤裕・写真	橋本一郎・北村小夜・監修	ポプラ社	2006	
15	聴覚障害	きこえの障がいってなあに？	エレイン・アーンスト・シュナイダー	トム・ディニン/イラスト	柳沢圭子・全日本難聴者・中途失聴者団体連合会・監修	明石書店	2007	
16	脳性麻痺	車いすのマティアス	トーマス＝ベリイマン	トーマス＝ベリイマン・写真	石井登志子	偕成社	1990	

\* このリストは、札幌えほん研究会の了解を得て、「読み聞かせ絵本の手引 355 冊の絵本」の中のバリアフリー絵本のリストを使用した。